

心豊かでたくましい児童生徒を育て  
小中一貫教育をめざして

## シリーズ えでゆれば

Vol. ⑩



異年齢児交流の様子(久川保育所)

### 小1プロブレム(幼保と小学 校の段差)の解消に向けて

三戸町教育振興協議会(藤村立夫会長)では小中一貫教育がスタートする以前から幼小や小中の連携事業を通じて教諭と保育士が相互に学ぶ機会を提供してきました。

去る10月31日(月)には久川保育所で三戸町幼児育成連絡協議会(中村トミ会長)との共催による幼小連携交流研修会が開催されましたので、その概要をお伝えします。

#### 公開保育

はじめに週に1回ほど「なかよしデー」で行っている異年齢児交流の様子が公開されました。3〜5歳児のグループをつくりリーダーは5歳児が務めます。リズム遊びを発展させた体を使った活動の中で、上の子は下の子をリードし下の子は上の子をまねて続きます。

この活動は、スキップやハイハイなどの動きで運動の基本動

作を獲得するだけでなく、本当のきょうだいのような縦のつながりをつくることも目的としています。

参加した小学校の先生からはスキップが上手だった、最近の低学年の児童が鉄棒を怖がらずに取り組める、運動面で上手にできる子が増えてきたのは、幼保での取り組みの成果であると感じたようです。同時に、リーダーとして生活してきた園児は小学校入学で一番年下になるので、自尊感情を低下させないような配慮が必要であるとの意見も出ました。

#### 小学校適応への課題と対処

次に参加者全員によるグループ協議を行いました。小学校生活へスムーズに適応するために必要なことを学習面・生活面・コミュニケーションに分けてご紹介します。

##### ◆学習面

##### 1 鉛筆の持ち方・使い方

小学校に入学したばかりの児童のうち正しく鉛筆が持てる子どもは多くありません。入学してから小学校でも指導しますが、



入学前から家庭で指導していただくことが重要です。

鉛筆を持つ前に、簡単に持てるクレヨンなどの短い道具を使って指や手首の動きを獲得することが効果的です。次に、鉛筆選びにはポイントが二つあります。幼児は筆圧が弱いいため4Bなどの芯が軟らかいもの、正しい持ち方を獲得しやすい軸が三角形になったものを選ぶことです。

## 2 ひらがなを読む

小学校に入学すると学習や生活で使う道具が多くなり、その全てに自分の名前を書きます。自分のものと他人のものを区別するため、ロッカーなど自分の場所を知るためには最低でも自分の名前(ひらがな)を読めることが必要です。

## ◆生活面

### 1 箸の持ち方

幼稚園や保育園などでも指導しますが、指導できるのは一日三食のうち一食だけです。鉛筆と同じように各家庭で継続指導していただくことが重要です。

低学年のうちは給食を時間内に終えることが難しいのですが、正しく箸を扱えるようになるこ

とで解消する場合があります。

## 2 排泄(トイレの使い方)

全国的に学校トイレの洋式化が進んでいますが、和式トイレも使えること、一人で用便が出来ることは重要です。

また、最近では便秘を訴える小学生が増加傾向にあります。規則正しい生活習慣(睡眠・食事・排泄・運動の循環とバランス)に気をつけ、出来るだけ朝の時間に排便する習慣を身につけましょう。

## 3 生活リズム

幼児が夜更かしの傾向にあるので、各家庭の状況に応じた改善が必要です。寝坊して朝食を抜き、遅刻しないよう車で送迎して運動不足という悪循環に陥らないためにも重要なことです。全国的に、運動のスキルは身につけているのに、体力(持続力)は低い傾向にあるようです。最近ではランドセルを背負って歩くことによる基礎体力の向上も重要視されています。

## ◆コミュニケーション

### 1 言語能力の発達

自分のことを話す、相手のこ

とを理解することは、共同生活をするために重要なことです。

個人差はあるものの最近の子どもは、言葉を発しない、頭の中で文章を組み立てられないなどの傾向にあるようです。その背景には家庭生活の中で会話が少なくなっている、単語を発しただけなのに保護者が子どもの要求をくみとって、やってあげてしまうなどの影響があると言われています。

あえて、物わがりの悪い親になって子どもに詳しく言わせることや、絵本を読み聞かせたり、たくさん子どもに話しかけたりして、イメージすることや日常生活など、言語能力の発達につなげていく必要があります。

## おわりに

小学校から中学校への接続期に「中1ギャップ」という大きな段差があるように、小学校入学後に生じる様々な問題を「小1プロブレム」と呼びます。

(例)授業中に立ち歩く、全体行動のとき各自が勝手に行動する、良い姿勢を保てないなど。

「小1プロブレム」を解消する



研修会には30名を越える教員と保育士が参加しました。

ためには、幼保から小学校への接続が円滑に行われることが大切であり、そのための指導方法を工夫することが必要です。今回の研修会では、それぞれの先生方が一同に会して話し合うことにより、お互いの教育内容や指導方法、あるいは児童の現状について相互理解を深めることができました。

今後もこのような研修会を重ね、幼保と小学校の連携を進めることで次第に円滑な接続が図られ「小1プロブレム」の解消につながっていくものと期待しています。